

福岡都市圏の海浜を利用した青少年育成のための提案

福岡都市圏の海浜施設を利用した青少年の育成について提案いたします。

本案は、青少年の育成を目的に福岡都市圏における固有な環境に着目し、市民参加型の活動拠点の整備について提案するものである。

提案の背景

A.福岡都市圏における海との関わり

「福岡都市圏は美しく豊かな海の都市である。」

「筑前国統風土記」から

貝原益軒は「早良郡（今の西区）は早良川（現室見川）流るる故に山林河海そなわりて薪材とぼしからず魚塩多し。」と古よりこの地域の自然豊かさや美しさを伝えている。

海岸線と都市圏

福岡都市圏は、金印・鴻臚館等に代表される「海の都市」である。その海は海岸線として殆ど博多湾に面し、外洋のうねりなどの影響を受けず、穏やかでマリンスポーツなどの遊びに適している。

海岸線と教育施設数

海岸線から500m内の教育施設数は56校を数え、これも主要な都市としては最大数である。

また、その海岸線に沿った海浜公園の充実を推進している。

B.少子高齢化における青少年育成の場

福岡都市圏では、子供も団塊世代も日本一長い海岸線を利用することで、海浜公園を利用できる環境が日本一である。

団塊の世代は海へ向かう

2007年8月18日の毎日新聞は、「豪華客船クルーズ快走」として06年利用者は前年より13%増と報じている。07年は引退した団塊世代を取り込み一段と増加すると見ている。

団塊の世代は有効な時間の使い方を模索しており、福岡都市圏においては、海浜がその舞台となっている。

子供たちは遊びへ向かう

少子化の原因として、現在の「子育て」の難しさが挙げられる。これは、青少年犯罪の増加として顕著に現れているが一方、進学受験競争の軟化や各種の育成事業により「子育て」のサポートも図られている。福岡都市圏においては「海岸線」が「子育て」の場として重要な役割を果たすことが十分期待される。

C.海浜公園を利用した大人から子供まで楽しめるスポーツの取り組み

愛宕浜海浜公園に根拠を置く「NPO団体福岡海浜スポーツ振興協会」では、小学低学年から60歳代の団塊世代まで、ウインドサーフィンを通じて青少年の育成を推進している。これらは毎年2回「この夏家族でカヌー・ウインドサーフィン教室」を開催しており、既に18回の多くを数えている。

同様の育成機関にない長期に持続できる理由には、高齢者から子供まで十分に楽しめる以下の要素が挙げられる。

「高齢者にとって、ウインドサーフィンは数十年働いた体に大変優しい」

疲れをがまんすることで体を鍛錬するものでなく、風の力だけで自由に海を散歩すること自体が快感となる。

海面のため、転倒などによる体への衝撃がほとんど無い。

自由に一人で楽しみ、時間や場所の面で団体行動の制約が無い。

全身運動であり血液の循環が良くなり、適度な運動による体調の管理が可能。（一日遊ぶと血圧は高い側は15近く下がり、ひと夏で15kg痩せた例もある）

「ウインドサーフィンは自然を利用したスポーツであり、人間性の形成にふさわしい」

自然が相手であり、風・波が強すぎれば乗れないなど力量に応じたの強大な自然を受けとめる必要がある。

自然に対する畏怖と共に敬意を表わすものと考え、「遊ばせていただく」気持ちと一歩引いて「待つ」気持ちの柔軟性が学べる。

青少年育成の視点 環境への思いやり

今遊べる自然環境が如何に重要かを認識できる。自然を大切に守り、人と自然の共存こそが重要だと思
い至ることが、最良の環境理解につながる。

社会性の形成

従前から家庭内・部活動等を通して教育されてきたコミュニケーションの方法や仕方が、少子化に伴う
兄弟数の減少等から苦手とする青少年や児童が増加している。これらに対し学校や学習塾に期待すること
は困難であり、その教育の場を与えることが現在最も必要と考えられる。特に海をフィールドとするスポ
ーツを行う場合には仲間への、意思や考えの伝達、感謝の気持ちが自分自身の生命を守る上で重要な要素
となる。

**「青少年は、指導者だけからモラルを教わるのではない。仲間である高齢の愛好家との付き合いから
も多くのことを知るのだ。」*1**

これらの活動趣旨にご理解を頂き、NPO 団体として「福岡海浜スポーツ振興協会」は福岡市より認定を受け、
愛宕浜海浜公園内において青少年の育成を目的にウインドサーフィンでの利用が了承されており、水道・シャ
ワ・トイレ・日陰のあるベンチなども共に利用させて頂いている。

提案の内容 (海浜インフラの活用と充実)

前述の背景や現在の活動内容から下記3点となる愛宕浜海浜公園の施設充実について提案を行う。

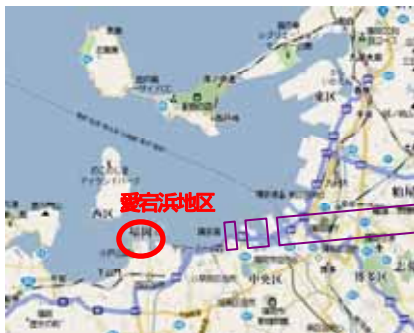
1. 年間使用可能なシャワー施設

百道浜海浜公園地区でのシャワーは常時開放されているが、隣接する愛宕浜地区については、夏季に公園管
理者で水道施設が用意されるだけで、シャワー等の体を洗える施設は整備されていない。

通常のシャワー施設は、体を洗う機能の他、更衣所としても利用される。

ここ数年の「この夏家族でカヌー・ウインドサーフィン教室」の活動は当協会のホームページで紹介してい
るが、参加者数自体は増加傾向にある反面、女性の参加は減少傾向となっている。

この理由について過去の参加者に聞くと、多くは更衣所の有無を指摘されている。また、ボランティアでイ
ンストラクターとして参加している女子国体選手至ってはさらに深刻で、当協会を後進育成の場としており、
女子の参加者減少は、女性特有の経験や技術を伝承できないと嘆いている。現在では男性での国体選手、世界
ユース代表が生まれており、今後女性の選手の育成も必要不可欠となっており、シャワー施設の設置は重要な
課題である。



指導風景



2. 倉庫

個人として道具をそろえることは、青少年の育成を目的とする場合、経済的に大きな負担となることから、
協会で用意することになっている。安定性を重視したオリンピック用のウインドサーフィンボードの場合には、
長い(約 4m)上に重(約 20k)く、通常のエレベータに入らないため、自宅管理ができない状況であり、
近隣家屋の方々にも預かっていただいている。そのため、活動の大半を用具の用意と片付けに費やし、主たる
目的である教育・訓練活動の妨げとなることも多い。このためボードを中心とした道具の置場(倉庫)が是非
とも必要である。

3. 緊急時の施設

わが国は地震国であり、四季を通じて刻々と天候が変わる国でもある。このため一般に海浜公園を利用する人や活動の場とする我々を含めて、緊急時における対処の確立が必須である。我々は、常に一般の人々への避難に対する援助や監視による救助を心がけているが、さらに警報受信・避難・誘導などの機材や避難システムの確立により、緊急時の対応はさらに充実すると考えている。

さいごに

ウインドサーフィンを通して環境への理解と社会性を持つ青少年が既に育ち始めている。

自然環境の面で

今年新大学生となった協会メンバーの二人はいずれも、環境系学科へ入学した。いろいろな海で遊ぶうちに、愛宕浜での自然環境悪化を強く意識して清掃活動等に取り組んできたが、地球規模の維持や保全に人生の基本を据えようとしている。

社会性の面で

昨年早春、愛宕浜海浜公園の防波堤付近でおぼれた人がいた。

見つけたメンバーの一人は、すぐ飛びこみ、他のメンバーがライフジャケットを用意し、メンバーの連携により引き揚げた。この方は一命をとりとめると共に、我々は人命救助として表彰を受けた。

助けが必要な人をみれば冷たい海に飛び込むという思いやり、すぐライフジャケットを用意できる連携と意志のつながり、救急の方への案内・報告・助力など社会で今一番求められることを進んで出来る青少年が育っており、我々の活動は徐々に成果を出しつつあると確信してる。

注* 1「週刊誌」2005/7/8 204p 書評「武士道とともに生きる山下泰裕・奥田碩」

福岡海浜スポーツ振興協会理事長 吉村正雅

倉庫兼用シャワー施設イメージ

